


水稲「キヌヒカリ」を作りこなすための7つのポイント

1. 平坦及び中間部（標高300m以下）に適応する良食味品種。 9月中旬に成熟する早生の早。
2. いもち病常発地には作付けしない。 いもち病に弱く、気象条件によって、かなりの被害を受けるので、種子消毒と病害虫防除を徹底する。

月	5			6			7			8			9		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育段階・主な作業	播 出 種 芽 期 期			田 活 植 着 期 期			分 最 幼 げ 高 穂 つ 分 形 期 げ 成 期 つ 期			穂 出 穂 乳 ば 穂 ぞ 熟 ら 期 ろ 期 み い 期			成 熟 期		
水管理	深 浅			中干し			間 断 かん 水			落 水					
塩種播 水子 選消種 毒				元病田 雑 肥害植 草 施用 防 用除 除			穂 病 肥 害 施 虫 用 防 除			穂 病 肥 害 施 虫 用 防 除			刈 乾 取 燥 調 製		

1. 健苗育成 浸種は低めの水温で
種物の準備：3kg / 10a
塩水選と種子消毒の実施
(比重：1.13、水20ℓに食塩4.1kg)
浸種...浸種と催芽で、均一なハト胸状態に。
播種...時期：5月上旬
量(ばらまき)：乾籾で100g / 箱
浸種籾で120g / 箱

育苗の目標(中苗)
育苗日数30日
草丈15~20cm
葉数3.5~4.0枚
(不完全葉除く)
温度管理・水管理
水のやりすぎ、温度のかけすぎは禁止!



出芽期	30~32
緑化期	昼20~25、夜15~18
硬化期	昼15~22、夜10~15

2. 田植え 太植えは禁止!
田植時期 6月10日頃
栽植密度
条間30cm、株間18cm(18.5株/m²)
植付本数は3~4本/株
太植えにすると茎が細くなり、倒伏しやすくなるほか、過繁茂となり、いもち病・紋枯病の発生を助長するため。
雑草防除(地域の慣行により実施)
散布後7日間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しをしないこと。

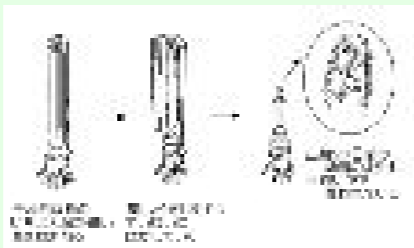
3. 水管理 登熟向上のために!
中干しは必要な茎数を確保した後に、軽くひび割れするくらいまでで7日程度実施する(7月中旬)。根の健全化と倒伏防止のため。
出穂後30日間は間断かん水。
圃場が乾き過ぎると登熟歩合が悪くなり、玄米品質が低下するため。

4. 施肥 いもち病にも弱いので、施肥量は控えめに!
< 幼穂の確認方法 >

地帯	平坦及び中間部		
	窒素	燐酸	加里
元肥	6	8	7
穂肥	3~4	-	3~4
合計	9~10	8	10~11

穂肥の施用
< 出穂期の20日前(幼穂形成期)：主稈の幼穂長が2~3mmに達したとき。 >
・出穂期の20日前の1回：緩効性肥料を窒素成分で3~4kg / 10a
平年は7月18日頃
(注)元肥に緩効性一発肥料を使用する場合
元肥に窒素成分で8~9kg / 10a (穂肥を施用しないこと)

実肥は、絶対に施用しない。
玄米の蛋白含量が増加し、食味が低下するため。



5. 病害虫防除 いもち病防除を徹底しよう!
(太字は基幹防除)
田植期
箱施用剤を施用
いもち病・イネミズゾウムシの防除
移植後2~3週間
ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)の防除
・被害が発生する場合は、登録薬剤を散布
・卵塊がピンク色であれば、水中に払い落とす
・浅水管理で被害発生を抑制
・2月に2回以上耕耘すると越冬密度が低下

7月下旬~8月上旬(幼穂形成期~穂ばらみ期)
紋枯病、イチモンジセセリ(イネツトムシ)、ウンカ類、いもち病の防除。
8月中下旬(乳熟期以降)
斑点米カメムシ類・ウンカ類の被害が予想される場合は登録薬剤を散布。
出穂20日前と出穂期に畦畔雑草の草刈りを実施することで、斑点米カメムシ類の侵入を少なくすることができる。

6. 収穫 適期刈取で良質米作り!
刈取適期
出穂期の35~40日後(全体の籾の9割程度が黄色く変わった頃)。穂発芽しやすいため、刈り遅れないように注意すること。
平年は9月11日頃。
刈遅れると、倒伏しやすく、穂発芽粒・胴割粒・茶米が増加し、玄米品質が悪くなるため、適期刈取に努めること。
乾燥
・乾燥目標水分は14.5%。
・刈り取った籾の水分が高いときは、最初は低めの温度で予備乾燥。
調製
・高品質の米に仕上げるため、ライスグレーダー(網目1.8mm)で選別し、屑米を除くこと。

7. 土づくり 米作りの基本!
稲わらの還元
年内に石灰窒素20kg / 10aと一緒にすき込む。稲わらの分解が遅れた場合、田植え後気温が上昇してくると急激に分解が進み、根傷みなどの生育障害が発生する。
15cm以上の深耕
作土が浅いと、枯れ上がりや倒伏が多くなって収量・品質とも悪くなるので、トラクターの速度とロータリーの回転数を遅くして、深耕する。
土壌改良資材の施用
肥料で補うことのできない養分を補給するため、稲わらをすき込む前に土壌改良資材を施用してから耕うんする。

(生育の目安)

播種期	田植期	最高分けつ期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	m ² 穂数	精玄米重	千粒重	1穂籾数	登熟歩合
5月上旬	6月9日	7月中下旬	8/5~8/9	9/5~9/16	80~85cm	18~20cm	320~350本	540~590kg/10a	22.5~23.0g	85~95個	81~85%

注) 1. 稈長、穂長及び収量構成要素：
水稲奨励品種決定調査(平成10~14年)
試験場所：檀原市四条町
栽植密度：17.9株/m²(条間31cm・株間18cm)
2. 出穂期・成熟期：平成17~21年のデータ